

(事後評価)

## グローバル社会に対応する女性研究者支援

(実施期間：平成 21～23 年度)

実施機関：上智大学（総括責任者：滝澤 正）

### プロジェクトの概要

(1) 女性研究者のための具体的な取組み

2020 年度までに全学の女性研究者の割合を、現在の 21%から 25%まで引き上げること、特に現状の女性比率が 5%に留まっている理工学部では、新規女性研究者採用比率を 25%とし、学部の比率を 15%に到達させることを努力目標とする。

本計画は、妊娠中及び育児に携わる女性研究者が可能な限り研究に専念できるように支援を行うと共に、グローバル社会に対応する女性研究者を支援・育成するために、男女共同参画推進本部の下で、以下の施策を実施する。

1. 外国人研究者による女性研究者のためのグローバル・メンター制度、専門家による英語論文作成指導、外国人女性研究者招聘による学内での研究者国際交流の促進
2. キャリアアップ支援コロキウムや女性研究者ロールモデリング国際シンポジウム開催
3. 妊娠中や育児中の女性教員の研究活動を支援する PD、RA の配置、事業内保育所の利用料補助等による育児支援、勤務時間の短縮、在宅勤務などへの配慮
4. 女性研究者相互のネットワーク構築とコモンスペースの設置

(2) 期待される効果

本学理工学部の女性研究者の妊娠や育児が研究活動に与える影響が極力低減され、その結果、若手女性研究者の研究力が向上し、世界に通用する優れた研究成果が創出されることが期待される。女性研究者比率のアンバランスが改善され、女性研究者の活躍の場が確保されることとなり、本学を目指す女子受験生、女性研究者へのキャリアパスを志向する女子学生達のモチベーションを高めることにも繋がる。また、本学のもつ国際的なネットワークやリソースを活用した支援は、グローバル社会に対応しうる女性研究者の育成に資するものであり、他大学等へのモデルとなることが期待される。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の内容	システム改革の成果	実施体制	実施機関終了後における取組の継続性・発展性
S	s	a	s	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

（2）評価コメント

機関の国際性を生かしたグローバル・メンター制度等の特徴ある取組を効果的に実施し、女性研究者のニーズに沿った両立支援、意識改革、裾野拡大を計画的に推進した。さらに、理工学部において教員及びポストクの女性限定公募を実施し、女性研究者を積極的に採用するとともに、事業終了後も大学のみならず法人全体のシステムとして意識改革を強く押し進める方向性は高く評価できる。

・**目標達成度**：教員の女性限定公募の実施により理工学系の女性研究者採用比率、在籍比率の目標を達成し、また、理工学系大学院博士後期課程の女子学生比率も目標を達成しており、高く評価できる。

・**取組の内容**：機関で蓄積された国際的ネットワークやリソースを最大限に活用し、グローバル・メンター制度の効率的な運用、国際シンポジウムの開催等を行い、グローバル・コンピテンシーを備えた女性研究者の育成を推進したことが評価できる。

・**システム改革の成果**：学内の特に執行部の意識改革が進み、ポジティブアクションによる女性限定公募が実施された。さらに、女性理事、女性副学長が誕生した点は高く評価できる。

・**実施体制**：理工学部を中心に積極的に取組を実施し、実施主体としてコーディネーター等を配置した大学の女性研究者支援事務局から法人の男女共同参画推進室へと展開している点が評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：事業実施期間終了後も、教員の女性限定公募を含めたほぼすべての取組を継続し得る体制とし、予算も措置しており高く評価できる。大学で進められたシステム改革は、法人全体に拡大するシステムとして計画されており今後の発展を期待する。